

① アンケートの回答のうち、自由記述の部分(問5～問13)について大まかにまとめています。

(アンケート集計からは回答のまとまりが見えにくいことも考えられることから本資料を作成しています)
(あくまでも大まかに示したものになっていますので、正確には(詳しくは)アンケート集計をご覧ください)

問5		問6	
小規模校			
よさ		課題	
選択(3つ以内選択)	2,115	自由記述	10
選択(3つ以内選択)	1,999	自由記述	8
1.一人ひとりにきめ細かな指導が行いやすい	459	佐賀は農業や漁業の経験などができる	1.子ども同士が切磋琢磨する教育活動ができない
2.意見や感想を発表できる機会が多くなる	244	先生方の余裕ができより丁寧に子どもと関わることができる	2.習熟度別・少人数指導など、クラスの枠を超えた多様な指導体系がとりにくい
3.様々な活動において一人ひとりが役割を務める機会が多くなる	297	集団が苦手な子どもにとっては、心が安定し静かに学ぶことができる環境になる	3.運動会・修学旅行などの集団活動・行事の教育的効果が上がりにくい
4.体験的な学習や校外学習など、学校が一体となって活動しやすい	212	病気などにかかりにくく学校の全生徒や教師と仲良くなれる	4.班活動やグループ分け、協働的な学習で取り上げる課題に制約が生じる
5.上級生・下級生間の縦の交流が生まれやすい	345	登校に時間がかかりすぎない	5.集団内の男女比に極端な偏りが生じやすい
6.児童生徒相互の人間関係が深まりやすい	193		6.一人の児童のクラスに与える影響が大きくなる
7.児童生徒が相互に学び合う活動を充実させることができる	66		7.多様な考えに触れる機会が少なくなる
8.教材・教具や運動場・体育館・特別教室などの施設が余裕をもって使える	197		8.クラス替えができないことから、人間関係が固定化しやすい
9.保護者や地域の協力が得やすく、保護者や地域と連携した効果的な指導ができる	102		9.PTA活動などにおける保護者の負担が大きくなりやすい

問7	
ゴールイメージ	4つのゴールイメージ以外のイメージ
選択(1つ)	自由記述
810	5
1.佐賀小・平生小・平生中のそれぞれを現状の位置で継続	244 佐賀小は閉校はせず佐賀の子ども平生小、佐賀小を選択できるようにする
2.佐賀小は現状の位置で継続、平生小・平生中は施設一体型小中一貫教育校(義務教育学校等)として現在の平生小又は平生中の位置にまとめる	106 佐賀小は当面、特認校を活用して現状で継続し、将来平生小・平生中の一貫校へ統合、平生小・中は平生小の新しい校舎を利用して、平生小で小中一貫校として整備する
3.佐賀小は閉校して平生小へ統合、平生中は現状の位置で継続	226 平生小は何年か前に新しくなっているので、平生小学校を中心にすべき。ただ、中学校も使用しつつ何年後か何十年後に小中一貫へと推進していくと良いのでは?その計画としてどこに、またその学校を建てるのか・・・です。
4.佐賀小・平生小・平生中は施設一体型小中一貫教育校(義務教育学校等)として現在の平生小又は平生中の位置にまとめる	234 平生小・平生中を施設一体型小中一貫教育校とし、後に佐賀小学校を統合する

問12	
再編検討時の配慮事項	
選択(3つ以内選択)	自由記述
2,049	11
1.児童生徒にとっての教育環境への対応(人間関係づくり、心身の負担軽減)	486 教職員の担保、能力向上、意識改革、子どもの自己肯定感、考えを述べる権利、多様な答えを肯定する環境
2.通学の方法等と安全確保に関する対応	461 個性伸長、学力向上 不登校の子どもが通える場所づくり
3.学校施設・設備(ICTや理科・英語教育推進のための施設、学校図書等)の整備・充実	230 児童クラブに入れなくならないように 災害時の利用建物(遠すぎる、少なくなる)
4.特別支援教育の推進やカウンセリングの充実	116 佐賀小の子どもが取り残されないように
5.義務教育9年間を見通した小中一貫教育の実施	184 その他 ・過疎自体の解消法・給食室
6.家庭・地域との連携・協働の強化	105
7.地域の拠点機能(地域交流拠点、文化・スポーツ活動拠点、防災拠点など)	104
8.施設の複合化(社会教育施設や福祉施設など、様々な機能を有する施設と一体的に整備)	39
9.学校再編で学校が空き施設になった場合の有効活用策	190 10.保護者・地域住民との十分な協議

問8		問9	
佐賀小は継続か閉校か			
佐賀小は存続		佐賀小は閉校	
選択(2つ以内選択)	539	自由記述	11
選択(2つ以内選択)	751	自由記述	10
1.学習環境の変化(きめ細かな指導ができなくなる、個々の活動の機会が減るなど)	89	選べる学校の選択肢がある方が良い 小規模校として独自の教育ができる	1.学習環境の変化(教職員が増える、多様な指導形態や学校運営形態の改善が図れるなど)
2.通学時間・通学方法の変化(通学距離が長くなる、通学路の安全が心配など)	200	大規模校に居場所がない子のために残すべき	2.集団活動・学校行事の充実(集団活動などの教育効果が上がるなど)
3.児童生徒への負担(新たな人間関係による心身の負担が増えるなど)	94	発達障害などで少人数のほうが向いている子の行き場がなくなる	3.人間関係の構築(クラス替えができる、多様な考えに触れることで社会性が育まれるなど)
4.伝統・地域性(地域の学校や母校がなくなる、地域の子どもは地域で育てたいなど)	69	学校がなくなることは、地域の過疎化に拍車をかける	4.学校施設・設備の整備・充実(教育予算の集中投資が可能になるなど)
5.地域の過疎化(学校がなくなることで居住者が減るなど)	68	小規模校が良くて引っ越してきたため	5.PTA活動などの環境改善(活動の充実が図れる、保護者負担が軽減される等)
6.地域拠点の消失(PTA活動や地域の活動、防災の拠点がなくなるなど)	19	送迎など親の負担が増える	6.少子化のためやむを得ない

問10		問11	
施設一体型小中一貫教育校の設置について			
設置する必要はない		設置する	
選択(3つ以内選択)	自由記述	選択(3つ以内選択)	自由記述
612	18	801	5
1.小学校段階と中学校段階は明確に区別するべきである	322 小中一貫の意義が不明 何がより良い環境になるのか 小中一貫校か、そうでない学校への進学かの選択肢がない	1.小学校時点の児童生徒の学習指導や生徒指導上の課題が中学校と十分に共有できる	151 小中一貫の意義が不明 何がより良い環境になるのか 現状にあった施設をつくることはメリットが大きい
2.小中連携は進んでおり、小学6年生児童が中学校へ入学する際の不安はあまりない	115 中学校に入るタイミングでリセットができる 新しい学校に行くというワクワク感がなくなってしまう	2.中学校へ入学する前の小学6年生児童の不安が解消できる	135 行事が同じ場所なら兄弟がいても参加しやすい また、吹奏楽部をすることができるのではないかと
3.小中一貫教育の推進(対応する子どもの年齢層の広がりが多様な対応等)は教員の忙しさに拍車をかける	125	3.中学校専科教員の授業を小学生が受講できる	65 経費が削減できる
4.PTAや学校運営協議会等の新たな大きな組織の設置は、地域連携の停滞につながる	50	4.児童生徒一人当たりに投入できる教員のマンパワーが増加する	45
		5.小中学校の教員間の交流により、教員の授業改善や指導方法の改善につながる	108 7.小学生と中学生の交流が進む(中学生による小学生への学習指導など)
		6.小・中が連携した教育活動(集団活動・学校行事など)が活発になる	156 8.PTAや学校運営協議会等を新たに組織することで、町全体の地域連携強化につながる

問13		
今後期待する教育効果		
選択(3つ以内選択)	自由記述	
1,979	5	
1.基礎的・基本的な学力を確実に身に付けられるようにすること	315 7.基本的な生活習慣を身につけられるようにすること 8.人権を尊重した差別のない人間関係を築くこと	49 教職員の担保、能力向上、意識改革、子どもの自己肯定感、考えを述べる権利、多様な答えを肯定する環境
2.自ら学ぶ態度や責任をもって実行できる力を育てること	178 9.いじめの未然防止や不登校の予防等に努めること 10.集団の中で共通のきまりや約束を守る態度を身に付けられるようにすること	334 魅力(例:学力が優れている)を有する学校 108 不登校対策、居場所づくり、専門教員の配置
3.義務教育9年間を見通した系統性、連続性のある教育を行うこと	37 11.多様な他者と連携・協働しながら困難を乗り越えていく 行動力を身に付けられるようにすること	78 生きる力をつけるために農業体験(食の確保)を 12.地域の課題に関心をもち、地域を大切にすることを育てること
4.道徳教育・情操教育を充実させ、豊かな心を育むこと	110 13.情報を適切かつ効果的に活用する能力を育成すること	59 過去には素晴らしい人材を輩出している、地方にいても素晴らしい教育が出来る環境を
5.スポーツを通して心身を鍛え、体力の向上を図ること	249	
6.保健・安全指導を充実させ、健康で安全な生活が営めるようにすること	77 14.学校図書館の整備を進め、読書活動の充実を図ること	96 15.英語教育を充実させるとともに、国際社会に生きる日本人としての自覚を高めること

② アンケートの回答のうち、自由記述の部分(問14)について大まかにまとめています。

(アンケート集計からは回答のまとまりが見えにくいことも考えられることから本資料を作成しています)
(あくまでも大まかに示したものになっていますので、正確には(詳しくは)アンケート集計をご覧ください)

問14 (平生町立学校の将来の在り方に関する意見-自由記述)							
教育全般	統合と連携・協働	統合・一貫教育	複合施設	不登校対策	いじめ	教職員の働き方	I C T
保護者目線で移住してでも通わせたいと思わせる魅力をもつ(平生ならではの)学校作りを	佐賀小は地域全体で学校を盛り立てている、是非存続を。地域の中心としてそれぞれ活動してもらいたい	小中一貫校にすると現場の先生が一番大変。全部まとめると、もう分けることができない	施設一体型なら、学校課題を町の課題、町の課題を学校の課題として捉え、学力向上、不登校対応、地域行事への参加、高齢者の増加	学校の空いたスペースを複合施設にするのは賛成	不登校生徒の居場所作りは必須！学校に来れなくても学校との繋がりを模索を。いま悩んでいる生徒に寄り添い居場所を早急に作ってほしいと強く願う。	先生方がやりがいを持っていきいき働ける体制に、勤務時間を減らすだけではなく業務自体の見直しを	多くの考え方や情報に触れられる機会を大切にする。同時に、情報の活用能力を高める
子どもたちにとって学校が一つの居場所になる存在に	反対する方の意見を聞き保護者としての見守りをお願いしていく、この対応の出来る方を置くのが大事	佐賀小は継続し、平生町に転入しなくなる特色のある小中一貫校をつくる	における支援、ボランティアの推進など、平生町全体として考える学校に	施設一体型であれば、図書館や体育館などの施設も一緒(近く)にし、地域の方も集える複合施設とするなどの魅力ある教育施設に	いじめなどのない人間関係の良い環境づくり 喧嘩やいじめ、差別のない学校	業務改善や子どもに十分対応するため人数を増やす 先生が(時間や心の)余裕をもって、子供たちに対応できるように希望	ITを使った教育や実用的な英語教育にもっと力を入れて
取りこぼしや孤立する子供が出ない対策が必要							
何かに特化した学校(英語教育)を作っていくことが大事	佐賀小の存在は、子どもたちにも地域の方にも大切な役割がある	特別支援教育では、小規模学校の佐賀小で勉強した方がとてもよい	児童数から1校あれば十分、多くの人と出会い、多くの考えや価値観があることを子どもの頃から身をもって体験させたい			先生の働く環境も大事にしてほしい。教員の負担が減るように変革を。	
一貫校として英語で授業とか、珠算の授業とか、全員フラッシュ計算が得意とか、何か特徴を	社会的なマナーやルールが守れるよう、教員、保護者、地域と一緒に教育に関わる	学校が少なくなることは平生町にとってかなりのダメージ 佐賀小を町内外からも通えるように整備を	小、中学校の統廃合は必要。少人数では経験出来ない事も出来るようになる				
子が安全安心して過ごせ、親があげられる環境を	地理的に統合は困難	じっくり考えて、設置場所、時期等の結論を出す					
教育に携わる組織の再編成・新たな仕組み作りを望む(業務の分業化や民間会社との業務提携等)	親・地域の人に関わりやすい環境・施設を願う	現状が理想だが、財政的問題で統合しても止むを得ない	小中一貫少人数クラスはあり得る	効率より通学の安全の重視を	PTAのあり方を考え直して欲しい(夜の見回りや挨拶当番など)	特認校の特性を生かし、小学校移住者を増やす事を目標にしてはどうか	給食費無償化の実現を 平生中を建て直すタイミングで、平生小・平生中を賄える給食室の新設を 給食施設も自校式を望む
昔から行なっている事を継承していける子どもを育ててほしい	学校だけで教育活動を展開することは困難、地域や保護者にかかわってもらえるシステムの構築を	子どもたちの多様性を尊重し、地域の皆が関われる学校に	新しく集約した学校を建てるのが良い 佐賀小児童が20人位になったら、統合もやむを得ない	防犯面や時間短縮の面で、中学生は全員自転車通学に			
学力レベルの底上げを	地域の人たちと関われる行事を増やしてほしい	子どもたちに変化の説明を	業務改善の面でも小中一貫教育を進めていくべき	安心して預けられる学校に 安心して学べる学校に			
幼保から一貫した平生町ならではの教育を推進願う	いろいろな世代との交流や学習を盛んな学校づくりを	集合化は現実としてとらえるべき	中学生とも一緒に関係を深めていきたい				
児童生徒の個に応じた指導体制を更に発展		同一敷地内は予算や人材を一つに集中させ、町全体の学力向上にプラスになる	佐賀小存続であれば、それに見合った費用対効果を示してほしい、存続ならば分校という形が望ましい				
小学生の時からもっと英語教育に力を入れてほしい		一体型小中一貫校は魅力ある提案だが、体育館や多目的ホール、グラウンド等の施設が授業等で不足が起らない様に整える	将来的には集約せざるを得ない				
一人ひとりにあった学習を進める個別の対応・支援と職員の配置		小中一貫教育のモデルを期待					
統合や縮小ではなく、画期的で素晴らしい教育を売りにして、平生に住みやすくなる学校づくりを							

問14			
その他			
平生のスポーツをもっと増やして盛んに、部活の選択肢を増やす部活(野球)を無くさないで	特色ある学校をつくりを、まちづくりにつなげて欲しい	教育に重点的に投資を。お金がかかることから統合の話をしてほしくない	多人数の子を持つ親が子育てしやすいように コンパクトでお金がかからない方法を
児童との連携を強めて欲しい、時間制約でまともに働けず、補償もされないと学校以前に生活出来ない	過疎化の進む小さな町だが、町の教育力や支援は手厚く充実していると実感している。地域の協力的体制も手厚く、後は家庭教育なのかなと感じる	学校や学習施設の総合的な配置・整備、高校も含めた通学の支援策を早めに出してほしい	道具の種類を、増やしてほしい 読書が沢山できるように本を増やしてほしい
地域消滅への準備を急ぐより、地域発展への策が必要	児童生徒の減少対策の早急な議論を	近隣市町との合併を視野に入れた将来像を	若い人が平生に住みたくなるアイデアにつなげて
少子高齢化が進む中で平生町がどう生き残るのか、重要な課題	災害時の避難所として確保する必要性	まずは大人たちが平生町の将来のあり方についてどう考えているのか明確にすべき	少子化の中で、平生がどう生き残るか
香害による健康被害	教育には投資を		